

(1日本史プリント2-6)

第2章 5. 平安朝廷の形成 c, 唐風文化と平安仏教(2)

⑤平安期…仏教革新の動きすすむ。

ア)[1 最澄]…[2 天台]宗を開く。中心=比叡山[3 延暦]寺

東大寺戒壇に対抗し[4 大乘戒壇]設立を求める

のち[5 円珍]・円仁らによって密教をとりいれる(台密)

→寺門派へ →山門派へ

イ)[6 空海]…中国で[7 密]教を学び[8 真言]宗を開く。(東密)

中心=東寺([9 教王護国]寺)、[10 高野]山金剛峰寺

※密教=11 秘密の呪法(加持祈祷)によって仏の世界に接することができる

→加持祈祷によって災いを避け[12 現世利益]を実現=皇室や貴族の信仰を得る

顕教=13 釈迦の教えを經典によって学び、修行して悟りを得ることができる

⑥[14 神仏習合]の高まり=仏教と[15 古来の日本の神々]との融合がすすむ(神宮寺など)

神像彫刻…薬師寺[16 僧形八幡神像]・神功皇后像

⑦山岳仏教の発達

ア)[17 修験道]の発生

イ)寺院を山岳に建築…地形に応じた自由な[18 伽藍]配置

([19 室生]寺など)

⑧密教美術…20 神秘的で官能的な表現

(如意輪観音・不動明王・大日如来など)

彫刻…[21 一木]造(「[22 神護寺薬師如来像]」

[23 観心寺如意輪観音像]など)

絵画…[24 曼荼羅]…仏の世界を特異な構図で描く

(「神護寺両界曼陀羅」など)

仏画…[25 不動明王]像(「園城寺不動明王像」(黄不動))

第3章 貴族政治と国風文化 1、摂関政治 a, 藤原北家の進出

①奈良朝末期 光仁天皇の即位=藤原百川(式家)、永手(北家)らの台頭

↓

②長岡京への遷都=藤原種継(式家)の独裁→種継暗殺=早良親王、大伴氏などを排斥

③藤原[26 北家]※の繁栄 ※不比等の四子のうちの次男[ア] 房前の子孫

・810 藤原[27 冬嗣]、嵯峨天皇の信任を得て[28 藏人頭]の地位に着く

・[29 平城太上天皇]の乱……嵯峨天皇派、平城上皇派(藤原仲成、薬子兄妹(式家)を破る

=藤原式家没落

・842[30 承和]の変=伴(大伴)氏(伴健岑)、橘氏(橘逸勢※)を処罰 ※三筆の一人

→858藤原[31 良房]、清和天皇の[32 摂政]として政治の実権を握る

・866[33 応天門]の変=伴氏(伴善男※)、紀氏を処罰、没落させる。

→884、藤原[34 基経]、はじめて[35 関白]の地位に就く

※伴大納言と呼ばれ、この事件を記した[イ] 伴大納言絵詞]は[ウ] 絵巻物]の傑作

・888[36 阿衡の紛議]=宇多天皇を屈服させ、関白の地位を確立

藤原北家の勢力の強大化、他家の没落

※摂政=a. (幼少の)天皇に代わって政治をとる役職

関白=b. 天皇を補佐して、政務を行う。すべての文書を天皇に先立って内覧する権限をもつ

④9世紀末、宇多天皇の政治、[37 菅原道真]を登用し藤原氏をおさえる

894[38 遣唐使]の廃止(←菅原道真の建議による)

・901昌泰の変…藤原時平、菅原道真を[39 太宰府]へ左遷→903死亡

※[40 怨霊]として祟ると考えられ、[41 北野天神]に祀られる。

↓

10世紀前半、[42 延喜・天曆]の治=[43 醍醐]・[44 村上]天皇の親政

→45 律令政治の復興の最後の努力がなされた時代

六国史・本朝十二銭・三大格式・班田収授などこの時期が最後

↓

⑤969[46 安和]の変……源高明を左遷=藤原北家の地位確立

9世紀の初めには、天皇が貴族たちをおさえて国政を指導したが、この間にも藤原氏(とくに[47 北]家)が天皇家との結びつきを強めて勢力をのばした。

嵯峨天皇のあつい信任を得た北家の藤原[48 冬嗣]は藏人頭になり、皇室と姻戚関係を結んだ。その子の藤原[49 良房]は842年の[50 承和]の変で伴(大伴)健岑や書家としても有名な[51 橘逸勢]らをしりぞけ、藤原北家の優位を確立、858年、幼少の清和天皇が即位すると天皇の[52 外祖父]として臣下ではじめて[53 摂政]となり、866年の[54 応天門]の変で伴氏や紀氏を没落させた。

光孝天皇は、良房のあとを継いだ太政大臣藤原[55 基経]をはじめて[56 関白]とした。基経は[57 宇多]天皇は888(仁和4)年[58 阿衡の紛議]で天皇を屈服させ政治的地位を確立した。

宇多天皇は、基経の死後、摂政・関白をおかず、学者[59 菅原道真]を重く用いたが、つづ醍醐天皇の時に藤原氏の策謀によって失脚させられた。

10世紀の前半は、[60 醍醐]・[61 村上]天皇が親政をおこない、のちに「[62 延喜天曆の治]」とたたえられた。[63 延喜の荘園整理]令がだされ、班田の励行をはかれるなど、律令体制の立て直しがなされたが、結局失敗に終わり、その崩壊が明らかになった。そして村上天皇の死後の969年左大臣の源高明が[64 安和]の変で左遷されると、藤原氏北家の勢力は不動のものとなった。